

全教神協広報

第一〇三号

全国教育関係神職協議会

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-1-1

神社本庁内

電話 〇三三三三三九八〇二一

Fax 〇三三三三三九八二九九

題字 諏訪秀一氏

糾すべき教育

全国教育関係神職協議会 会長 佐藤 英尊



この度ご推輓を受け会長の重責を担うことになりました。この時にあたり、意の一端を披瀝し任務遂行の礎としたいと思います。

情報化社会の現代は人間の力を大きく拡張しました。情報機器操作で随時必要な知識が得られ、複雑な数式による計算も瞬時に行うことができます。反面、無制限に拡散する情報は非教育的現象を伴って急激な社会の変化とともに人間疎外を強めていることも事実です。大人も子ども

もも区別なく情報の渦に晒され人間の自然な心身は蝕まれています。仮想現実としての情報は現実から乖離し、現実と非現実をとりちがえることが儘あります。このことが訥々として報じられる思まわしい事件の背景にあると思われまます。

戦後教育は、人間の生き方を支える「非認知能力」の育成よりも自己完結性や自由思考を重んじ、オリジナリティーを求めることに終始してきました。そして教えることよりも子どもの無垢な感じ方や考え方を尊重しようとする自由主義の考え方を蔓延らせました。その上で行動様式のように戦前教育の復活を招くとして教育活動から排除されたものもあります。一つは「氣を付け」の姿勢です。卒業式などの儀式でも足を広

げたままのだらしない姿を目にすることが多くなりました。今一つは運動会の「行列行進」です。全体に合わせて行進することを通して協調性を身につける機会だったのですが、軍事教練を連想するとして排除されました。その結果、行儀作法を身につけることから遠のいたばかりでなく所属感や物事を協力してやり遂げる意識のない子どもも多く見るにいたりました。

伝統を受け継ぐ教育は、温故知新を旨として伝承すべきものを学び、充実した展開を図るプロセスです。ところが、GHQが押し付けた「日本人に戦争犯罪の意識を刷り込む情報宣伝計画」(WGIP)は恣意的に戦前日本の体制を悉く否定し伝統継承を断ち切りました。その上でジョン・デューイのプラグマチズム即ち経験主義の教育を導入してダメ押しのに伝統に基づかない教育を展開しようとした。これは後に「這い回る経験主義」と批判されましたが伝統という基準をもたない経験依存の教育論理は、這い回らざるを得なかったと思います。「教育のない学校」の著者カール・ペライターは「子どもの創意や能力を頼りにすることにより、彼らにはとても及ばないような大きな負担を負わせたままお茶を

濁しているに過ぎない」と経験主義の教育を痛烈に批判しています。

GHQが仕組んだ「新しい日本建設」に一役買うはずの経験主義でしたが「戦後民主教育」迷走の序曲となりました。「経験主義」「系統主義」「ゆとり教育」を経る中で、現代では無秩序な情報環境と相まって、子どもの学力と学習意欲に問題を投げかけております。これは七十有余年にわたって日本人の麗しき伝統を壊し続けてきた戦後教育の当然の帰結です。しかしながら教育基本法の改正が行われ、漸く偏向を糾し、本来の日本を学ぶ足掛かりを得ました。これは戦後教育体制は正の一步ですがその道のりは長く険しいものと思えます。このたび制度化され実践に移された特別の教科、道徳も麗しき日本の心を育む教育の布石として期待される反面、根無し草とならぬよう行方を厳正に見守っていかなければなりません。

戦後教育の是正には本会の過去現在未来が関わり、日本人としての誇りを蘇らせる教育のたゆみない歩みが期待されております。岡山大会で全会一致により採択した大会宣言を基底において事業計画推進に取り組んでまいりたいと思えます。